



国際標準論理文章能力検定

International Standard Competency
Test of Logical Thinking

Level 6-7

2024年度
第2回

問題
用紙

検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。
まず、下記の注意をよく読んでください。

□ 検定上の注意 □

1. 検定時間は60 分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて
監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。
6. 字数条件のある問題に解答するときは、句読点や記号も一字に数えます。

受検番号

氏名

《問題Ⅰ》

第一問 () の後の言葉に続くように、傍線部の指示内容を【 】内の字数制限にしたがって書きなさい。

(1) 日本を訪れたり、居住して仕事をしたりする外国人はどんどん増えている。グローバル化がいわれて久しいが、予想を超えたスピードでそれは進んでいるのではないだろうか。では、そのような社会で生きていくためには、どのような力が求められるだろうか。何より大切なのは、外国人が相手でも、自分の考えを伝え、心を通わせられるようになることであろう。外国を訪れた経験や知識もあるとよいだろう。しかし、そのために必要なのは、言語や宗教、習慣などが異なっていること、意見を伝えられる論理的な思考力や表現力なのである。

【二十九字】

() なること。

(2) 二つ以上の物事には、絶対的な優劣があるのではなく、何を基準にするかによって決まる、つまり優劣とは相対的なものであることを示す例として、こんな例え話があります。

「強弱」という漢字の成り立ちを調べると、「弱」は「弓」に装飾が施されたさまを表し、見た目に美しい儀礼用の弓が、実用においては軍事用の弓に劣ることを示しています。一方の「強」は昆虫の蛾の幼虫からとった強い糸を弦に使った、強靱な弓を表しています。つまり「強」と「弱」は、よい弓と悪い弓という優劣を示すもので

はなく、成り立ちの違^{ちが}う二通りの弓があつて、実用と儀礼用というそれぞれの役割を示すものなのです。強い弓は狩^{しゅりやう}獵や戦^{せんとう}闘の場面で力を発揮するが、美しさにおいては劣る。弱い弓は儀礼の場面で役立つが実用性に劣る。このように考えると、強いものがよくて価値があり、弱いものには価値がない、という固定的な考え方を改めることができるのではないでしょうか。

【十字】

() であると考えること。

第二問 次の文の (①) (②) に入る接続語を後のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

- (1) 人は同じことを何度か繰^くり返していると、努力をしなくても習慣的に行動できるようになります。(①)、頭を使わずに済むので、脳に余^{よゆう}裕が生まれます。こうして脳を休ませることで、新しい仕事をする事ができるし、いざというときには頭をフル回転させることも可能になります。すべての刺^{しげき}激に毎回同じように反応していると、脳は疲^{つか}れてしまいます。そこで、すでにわかっているようなことには、決^きまった行動をとることで、神経の疲^{ひろう}勞を防いでいるのです。(②)、同じように見えても、少^{ちか}し違^{ちが}う刺^{しげき}激が与えられると、脳はそれに反^{はん}応して対^{たい}処^{しょ}するという素晴らしい機能を備えています。

ア では イ なぜなら ウ すると エ ならびに オ しかし

(2) さまざまな技術が発達すると仕事の効率が上がり、物の品質も良くなるし生産量も増える。だから世の中は豊かになる。そして、生産に必要な時間も短縮されるから、人の労働時間は減って、自由時間が増える、となるはずです。(①)、なかなかそうならないのはなぜでしょう。近代社会は競争の社会でもあります。企業と企業が、国と国とが、激しく経済的な競争をしています。経済の競争に必要なものはお金です。お金があればあるほど、競争に有利になります。(②)、どの企業も、どの国も、ますます生産の効率を上げようとしています。その結果、生産を高めるための無限競争になってしまうのです。

ア そこで イ ならびに ウ ところで エ なぜなら オ ところが

《問題Ⅱ》

第一問 次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

教養は知識や情報の量とは関係がない。知識や情報は、それ自身としては、何処まで行っても教養とは結びつかない。知識や情報は豊富であるに越したことはないが、それらはあくまで必要悪であって、従ってなければ困るが、あるからそれで安心というものではないのだ。それどころか、必要悪というからには、必要な限度を超えれば、単に悪としてしか作用しないということもまま起こり得ることなのである。

大学で研究者を目指す青年にえてして多い病気は、学問の各分野における知識や情報を、学問そのものと混同することである。若い未熟な研究者が、自分の未経験の不安や能力の不在を埋めるために、もっぱら知識や情報ばかりを矢鱈^{やたら}頭に詰め込む不健康なケースも無論あるが、私が言っているのはもう少し普遍的な問題である。海外からの知識や教養を仕入れるだけで、かなりの程度に安心できる構造が、もともと日本の近代の学問にはあるということと関係している。

まだ私が若かった頃^{ころ}、大学の研究室で、上級生の大学院生や助手クラスの人々の中によく見掛けた、一見秀才^{しやうたい}めいた自信家が、どんなに無内容な博識家にすぎなかったかが、今はつきりと思ひ出せる。

(中略)

私が所属していたのが文学部ドイツ文学科であったから、当然のことだが、ドイツにおけるドイツ文学研究の新しい

動向に彼らは例外なく敏感^{びんかん}だった。そして、これまた例外なく、若くしてこま^こま^まや^やく^くれた専門家であることを競い合
い、自分が日本人として何のために、どのような動機で外国研究に向かうのかという、最も初歩的な、しかしまた最
も根源的な問いをわが身に発することだけは避^さけているのである。否^{いな}、そういう問いを発する内的必然性さえ彼^{かれ}らは感
じない。自分とは何か？ というそういう問いを措^おいて、単に外国の最新の動向に自分を合わせて、知識や情報ばかり
わが身に詰め込^こんでみても、じつは本当の学問はできないのではないか、という不安な疑問がそもそも彼らにはないの
である。

② 生産^み的な不安を欠くことが、私に言わせれば、無教養ということに外^{ほか}ならない。これに対し絶えず自分に疑問を抱^{いだ}
き、稔^みりある問いを発し続けることが真の教養ということである。私が若い頃に研究室で数多く出会った秀才^{しゅうさいぜん}然とした
博識家たちは、単に若かったから、あるいは未経験だったから、知識と学識とを混同する誤謬^{ごびやう}を犯^{おか}したに過ぎない、と
いう寛大^{かんだい}な見方も勿論^{もちろん}できないわけではない。しかし、私はそれよりもっと本質的なことを言っている積^{つも}りである。日
本^③の学問は欧米に精神の鍵を預けて発展して来た。いわゆる教養の高下は「文明開化」の程度に應じている所以^{ゆえん}だ。と
すれば、彼ら若い博識家——知識や情報は単なる必要悪^{ひつようあく}であることを知らない——の空虚^{くうきよ}なあり方は、日本の近代^④的学問の
そのものの姿^{すがた}ではないだろうか。事実、私が若い頃^{ころ}に出会った彼ら博識家たちは、日本の学界では必ずしも失敗者では
ないのである。そこにじつは問題がある。

ヨーロッパやアメリカに精神の鍵を預けて、自分はただ机に向かつて、黙々^{もくもく}とそれを追認する。人文社会科学系の学
問においては、今なお大半の日本の学者がこういう状態にある。彼らは最も西洋的であるように見えて、そのじつ近代
日本的性格を最も露骨^{ろこつ}ににじませているのである。

そういう彼らを見ると、学会の最高位をきわめた学者であっても、私には少しも教養ある人士には見えないのである。

(西尾幹二「人生について」)

(1) — 線部①「もう少し普遍的な問題」とありますが、それはどのようなことですか。ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本の学界全体が海外の知識や情報を仕入れることを学問だと考えていること。

イ 最新の知識や情報にしか価値を見出さず、近代の文献ぶんけんを軽視する傾向にあること。

ウ 若い研究者は知識や情報を必要悪だと考えることができず、研究が停滞ていたいすること。

エ 情報や教養を重視するあまり、知識を身に付けることをおろそかにすること。

(2) — 線部②「生産的な不安」とありますが、それはどのようなことですか。ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 社会的に利益のある研究ができているのかと不安に思う気持ち。

イ 自分には本当の学問ができていないのかということを不安に思う気持ち。

ウ 博識家であることを評価してくれない学界に対して不安に思う気持ち。

エ 根源的な問いをわが身に発する必要があることを不安に思う気持ち。

- (3) — 線部③「欧米に精神の鍵を預けて」とありますが、それはどのようなことですか。本文中の言葉を使って二〇字以内で答えなさい。

- (4) 本文に書かれた「教養」という言葉について、筆者の考えが最もよく表されている一文を選び、始めと終わりの五文字を書きなさい。(句読点などの記号を含みます。)

- (5) 次の中から本文に書かれた内容と一致するものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 近代の日本では欧米の知識と教養を重視して、独自の文化を守ることをおろそかにした。

イ 日本でドイツ文学を研究する問題は、最新の情報を得ることが難しいことである。

ウ 日本の学者の多くは、今なお近代日本における学問の在り方から変化していない。

エ 欧米の学界で評価されるのは知識と教養を身に付けた研究者であり、日本もそれに倣っている。

第二問 次の文に書かれたことと、内容が矛盾しない文をア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

「にがり」は豆腐を作るときに使われることで知られています。海水を煮つめると、最後に塩とミネラルを含んだ溶液が残ります。この溶液がにがりです。にがりには、マグネシウムなど食生活で不足しがちなミネラルが含まれており、健康にもよい影響があると考えられています。また、マグネシウムはカルシウムの吸収を助けるといわれるので、小魚

など、カルシウムを多く含んだ食品を摂取する際は、豆腐と一緒に食べるとよいとされています。

ア にがりにはマグネシウムの吸収を助けるはたらきがある。

イ 健康によい影響があると考えられるのはミネラルを含む食品である。

ウ 豆腐を作る際に必要なのは塩とにがりである。

エ 小魚と豆腐には、ともにマグネシウムやカルシウムが多く含まれている。

《問題Ⅲ》 次の問題に答えなさい。

第一問 次の文に続くように、後のア～エの文を並べかえなさい。

現在、我々が生きている社会は、衣食住など身の回りにあるものを含め、交通や通信手段など、ほとんどが人の生産物であり、それらのすべてが安全を意識して生産または運用されている。

ア つまりトラブルや故障は避けられないとする考え方である。そして仮に問題が起きた場合は、そのたびごとに反省され、改善が求められる。

イ 人間の知恵ちえというのは、悪い事態が起きたときを想像することである。その想像が現実にならないように努力することが最悪の事態を防ぐのであり、結果として得られた信頼しんらいの上に成り立っているのが現代社会だといってもよいであろう。

ウ 大型の機械や公共性の高いシステムでは、万一障害が発生したとき、致命的な事態ちめいてきにならないように補助装置を用意したり、別の機械を用意しておく、つまりバックアップ機能が備えられたりしているケースが多い。

エ そうすることで安全性は高められ、維持いじされている。安全性を維持することで信頼が生まれ、逆にいうと安全を連続して実現することでしか信頼は生まれない。

第二問 次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

① ヒトの脳の前頭葉には言語に関する中枢領域ちゅうすうりきがあることがわかっています。幼児期に言語的な刺激を受けることで、言語中枢の神経回路が発達します。この神経回路は七〜八歳さいまでに集中的につくられ、それまでに母語としての言葉を覚えていくとされています。つまり、この時期までに二つの言葉を使う環境かんきやうにあれば、バイリンガルとして育つことが可能になります。ただし、バイリンガルになることと、言語をしっかりと使いこなすこととは

別の問題です。

② 脳の能力には限界があり、ヒトは限られた領域の中に言語情報を入れて生活しています。二つの母語をこの領域に入れると、どちらも中途半端ちゅうはんぱになってしまい、うまく使いこなせなくなる可能性があります。そこで、二つの言語を習得するには、母語を一つの言語に絞りしぼり、一方の言語は第二言語として学んだほうがよいのではないかと考えることができます。

③ 言語の獲得かくとくは幼児期までであることから、日本でも、以前は早い時期に英語教育を始めたほうがよいといわれていましたが、現在では、まず日本語を根付かせてから第二言語として英語を学ぶほうがよいという意見が増えています。まずは日本語でしっかりと考えたり表現したりする基本的な能力を養い、その力を支えとすることで、英語などの第二言語をより深く学ぶことができるというわけです。

④ このような考えが成り立つ理由の一つに、日本では科学をはじめ、さまざまな学問を日本語で学べる土壌つちがあることが挙げられます。江戸末期えどから明治期にかけて、日本には西洋からたくさんのもが入ってきましたが、そこには物質的なものだけでなく、さまざまな概念がいねんも含まれていました。当時の日本人はそれを咀嚼そくじやくして、いくつもの新しい言葉を作ったのです。「科学」という言葉もその一つです。学校などで広く人々にものごとを教えるには母国語であるほうが学びやすいことは言うまでもありません。現在でも、多くの国では科学を英語で学んでいます。日本は科学を母国語で学び、考えることができる数少ない国の一つなのです。

⑤ このように、しっかりとした日本語があるおかげで、日本ではさまざまな学問や知識を母国語で身に付けることが可能です。しかし、現在のように外国語をそのままカタカナにした言葉が氾濫はんらんし、また、会話や表現などの言

語運用能力を重視して、語彙力ごいりよくを含めた読解力を重んじないとすると、日本人の言語リテラシーは維持いじされず、日本語も英語も身に付かないということになりかねません。

(1) 本文の①～⑤は段落の番号である。それぞれの段落には、どのようなことが書かれているか、ア～オの記号で答えなさい。

ア 脳の能力と言語の習得について。

イ 日本語の現在と言語の習得について。

ウ 日本における母国語での学びについて。

エ 二つの言語を習得する方法について。

オ ヒトの脳における言語中枢ちゅうすうについて。

(2) ①～⑤のうち、筆者の主張が書かれた段落を一つ選び、その内容を百二十字以内で要約しなさい。

《問題Ⅳ》 次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

山本さんのクラスでは、スポーツ大会で実施する競技を決めることになりました。
候補に挙がっているのは、以下の四つです。

- ・バスケットボール
- ・バレーボール
- ・ソフトボール
- ・バドミントン

この四つのうちから一つを選ぶために、多数決を行いました。資料1の表がその結果です。

ソフトボール	12人
バスケットボール	9人
バレーボール	5人
バドミントン	4人

資料1

この結果を見た田中さんから、「クラスの半数以下の人しか賛成していない競技を選ぶのはおかしいのではないか」という意見が出ました。

そこで、上位の二種目となったソフトボールとバスケットボールを対象にして、もう一度、投票をすることになりました。その結果が資料2の表です。

ソフトボール	14人
バスケットボール	16人

資料2

山本さんは、家に帰ってから、このことをお兄さんに話したところ、多数決による決定には、半数以上の賛成が得られなくても選ばれる場合があるほか、（A）のような問題点があることを教えてもらいました。また、投票によって何かを決める場合には、次のような方法もあることを話してくれました。

種目	1 位	2 位	3 位	得点
ソフトボール	1 2 人 (36点)	6 人 (12点)	5 人 (5点)	53点
バスケットボール	9 人 (27点)	6 人 (12点)	7 人 (7 点)	46点
バレーボール	5 人 (15点)	3 人 (6点)	6 人 (6点)	27点
バドミントン	4 人 (12点)	1 5 人 (30点)	1 2 人 (12点)	54点

資料3

選択肢^{せんたくし}に順位をつけて投票する方法

- ・投票者は選択肢の中から三つ選び、1位・2位・3位の順位をつけて投票する。
- ・1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計し、最も得点の多かった選択肢を選ぶ。

この投票の仕方だと、投票した全員が、ある程度納得しやすい結果になるといわれており、プロスポーツの世界では、その年に活躍^{かつやく}した選手を選ぶ際などに採用されています。山本さんのお兄さんは、この方法で投票すると、多数決とは違^{ちが}う結果があることがあったと話してくれました。仮に資料3のような投票結果になった場合、資料1とは異なる順位になることがわかります。

第一問 資料１と資料３で選ばれた種目を、それぞれ答えなさい。

資料１（ ）

資料２（ ）

資料３（ ）

第二問 （Ａ）に入る言葉として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少数意見が反映されにくい

イ 結果が出るまでに時間がかかる

ウ いちばん多い意見が反映されない

エ 選択肢せんたくしの決め方が公平とはいえない

第三問 資料１と資料２からわかることとして、正しいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア １回目にソフトボールを選んだ人は、２回目にはバスケットボールを選んだと考えられる。

イ ２回目にソフトボールを選んだ人は、１回目にバドミントンを選んだ人だと考えられる。

ウ １回目にソフトボール以外を選んだ人の多くは、２回目にバスケットボールを選んだと考えられる。

エ 一回目にバスケットボール以外を選んだ人の多くは、2回目にソフトボールを選んだと考えられる。

第四問

資料3の結果から、ソフトボールとバドミントンには、それぞれどんなことが言えますか。次のア～オの中からあてはまるものの記号を答えなさい。

・ソフトボール ()

・バドミントン ()

ア 一位に選んだ人も少なく、全体に選んだ人が少ない。

イ 一位に選んだ人は多いが、2位以下に選んだ人は少ない。

ウ 一位から3位まで、ほぼ同じ数の人が選んでいる。

エ 一位に選んだ人は少ないが、2位以下に選んだ人が多い。

オ 一位に選んだ人が最も多く、2位以下にも多く選ばれている。

第五問

資料1から資料3を見て、一回目に行われた多数決にはどのような性質があると考えられますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 投票者全員が納得できて、多数の賛成を得たものが選ばれるため、決定方法として間違^{まちが}いがない。

イ 投票者の多くが納得できる結果が得られず、少数意見が選ばれることもないため不公平である。

- ウ 少数意見を反映することはできないが、半数以上の人が選んだ結果であるため、投票者全員が納得しやすい。
- エ 投票者全員がある程度満足する結果が得られず、一部の人が強く望む結果になる場合があり得る。

《問題Ⅴ》 次の文章について、あなたの意見を書きなさい。ただし、意見をまとめるにあたっては、後の図のような

形になるように、(a) (d) に当てはまる文をそれぞれ書くこと。また、aは二十字以上三十字以内、bは四十字以上六十字以内で書くこと。

飛び級制度とは、特定の分野で優れた能力を持つ学生が、通常よりも早く上の学年や学校に進級できる制度です。飛び級制度は大学卒業までの期間を短縮できますが、飛び級をした学生は、年長者ばかりの集団に所属することになります。なお、海外や日本での飛び級制度の実施は次のようになっています。

- ・ 学習内容が身についたかどうかで生徒の学年や進級を決めるという考えが基本にあるアメリカやフランスなど、多くの国では飛び級が一般的に行われている。
- ・ 日本では一部の大学で飛び入学制度が実施されているが、あまり一般的ではなく、また小学校、中学校での飛び級制度は実施されていない。

このような点があることを理解したうえで、あなたは日本における小学校、中学生の飛び級制度に賛成しますか、それとも反対しますか。

a 自分の意見（賛成か反対か）

b 理由

c 理由

d まとめ

（ a ）

その理由は、二つある。まず、（ b ）また、（ c ）

だから、（ d ）

